

平成 19 年度 秋期 プロジェクトマネージャ試験 解答例

午後 試験

問 1

出題趣旨	
<p>会社法，金融商品取引法の制定を受け，情報システムとともに，その開発プロジェクトにおける内部統制への対応の必要性が高まっている。今後，プロジェクトマネージャ（PM）には，内部統制へ対応することの重要性を正しく認識し，開発プロジェクトを管理することが求められる。</p> <p>本問では，このような社会的要請を受け，情報システム開発プロジェクトの PM として理解しておくべき内部統制の知識，リスクへの対応能力を評価する。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考					
設問 1	プロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・変更の記録を明確に残す。 ・適切な管理者に開発実施の承認を得る。 ・変更管理プロセスを明確にする。 						
	安全性	保守に必要なアクセス権限だけ与える。						
設問 2	(1)	正当性	<ul style="list-style-type: none"> ・人手による改ざんのリスクがある。 ・人為的ミスが発生する。 					
		効率性	決算処理の期間短縮ができない。					
	(2)	オフコン版	<table border="1"> <tr> <td>条件</td> <td>サポート停止の時期</td> </tr> <tr> <td>影響</td> <td>移行完了時期が制約される。</td> </tr> </table>	条件	サポート停止の時期	影響	移行完了時期が制約される。	
		条件	サポート停止の時期					
影響	移行完了時期が制約される。							
新 ERP	<table border="1"> <tr> <td>条件</td> <td>オフコン版の資産管理機能を充足すること</td> </tr> <tr> <td>影響</td> <td>新 ERP へ移行することの可否</td> </tr> </table>	条件	オフコン版の資産管理機能を充足すること	影響	新 ERP へ移行することの可否			
条件	オフコン版の資産管理機能を充足すること							
影響	新 ERP へ移行することの可否							
設問 3	執務場所	<ul style="list-style-type: none"> ・執務場所を 1 か所に集める。 ・プロジェクトルームを用意する。 						
	体制面	資産管理チームに新 ERP の機能が分かる要員を増強する。						
設問 4	(1)	a 経営者						
		b 外部委託						
		c 結果						
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・監査のポイントに適切に対処するため ・内部統制（又は IT 統制）が機能していることの証明のため 						

問 2

出題趣旨	
<p>システム開発プロジェクトにおいて，プロジェクトマネージャ（PM）は，開発方針を定め，その方針に沿ってプロジェクトを推進するために取り組むべき事項を把握し，実施していくことが重要である。</p> <p>本問では，システム開発や保守の効率向上を目指した開発方針の下，関連部門と意識を合わせることに配慮するとともに，想定するリスクを考慮してプロジェクト計画を策定し，適時に必要な措置を実施し，発生する課題へ対応するなど，PM に期待されている実践能力を評価する。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問 1	(1)	集計機能の仕様が固まらない。	
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・仕様の分かるメンバに参加してもらう。 ・仕様をドキュメントに起こしてもらう。 	
	(3)	支援ツールの標準機能で実現できる仕様としてもらう。	
設問 2	仕様検討に必要な支援ツールの機能を把握することができる。		
設問 3	経験のない支援ツールを使用するから		
設問 4	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・開発方針に合わないから ・将来の保守の効率向上が達成できないから 	
		修正バージョンの提供が遅れ，延期したサービス開始時期が守れない。	
	(3)	デグレードがないこと	
	(4)	a E 社が負担	

問 3

出題趣旨	
<p>システム開発にかかわるプロジェクト計画の策定に当たっては、関連するシステムの開発状況や開発体制面での課題などを十分に考慮した上で、品質、費用、工程などを適切に管理し、プロジェクトを円滑に遂行するために、プロジェクトマネージャ（PM）には様々な対応や、工夫の検討が求められる。</p> <p>本問では、システム再構築時のプロジェクト計画の策定を題材として、PM のプロジェクトの円滑な推進に向けた知識や実践能力を評価する。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・ 予期しない修正が必要となり、工数が増大する。 ・ 後工程で問題が発覚し、手戻りが生じる。 	
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・ 網羅性がどの程度確保できているかの確認 ・ 改修部分に対応するデータが整備されているかの確認 	
	(3) <ul style="list-style-type: none"> ・ 追加データによるテストの実施 ・ テストケース及びテスト計画の見直し 	
設問 2	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・ 現行システムの総合テストを終え、品質が確保されているから ・ より品質の良いプログラムを使用して作業ができるから 	
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合テストの期間にまとめて対応できるから ・ 確認済の機能を再確認する手戻りが何度も生じないから 	
	(3) <ul style="list-style-type: none"> ・ バックログが大量に蓄積される。 ・ 機能追加が長期間できなくなる。 	
	(4) <ul style="list-style-type: none"> ・ 現行システムとの並行稼働の実施 ・ 両システムの処理結果の突合せの実施 	
設問 3	(1) <ul style="list-style-type: none"> a <ul style="list-style-type: none"> ・ 要員の動員力 ・ バックアップ体制 	
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・ DB の内容を理解している。 ・ 開発標準を熟知している。 	
	(3) <ul style="list-style-type: none"> ・ Y 社の指揮命令権を尊重する。 ・ 請負契約に見合う適正な作業形態にする。 ・ 偽装請負にならないようにする。 	

問 4

出題趣旨	
<p>情報システム開発プロジェクトの重要性が増すとともに、プロジェクトマネージャ（PM）には、契約の内容、知的財産権の保護、適切な要員の調達、納期や予算の遵守などに関して、リスクを想定した計画策定と計画に沿ってプロジェクトを運営して目標を達成する能力が求められる。</p> <p>本問では、納期と予算に厳しい制約が課せられた情報システム開発プロジェクトの PM として、備えておくべき契約や著作権に対する基本的な知識、要員計画の策定に必要な基礎的な知識、要員調達に関する社内での交渉能力、予算管理に関する実践能力を評価する。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・開発範囲が前提より膨らんだ場合は、開発範囲を絞る。 ・開発範囲の前提が変わる場合は、費用と納期を再度見積もる。 	
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・仕様決定の責任者を決める。 ・利用部門の要求のまとめ者を決める。 	
設問 2	(1) K 社の承認なしに Q 社パッケージが販売できなくなる。	
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・Q 社パッケージの著作権は Q 社にあることを明記する。 ・K 社プロジェクトでの追加開発部分の著作権だけ譲渡する。 	
設問 3	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・追加開発部分の範囲、仕様の確定が効率良くできない。 ・適合性の確認が遅れ、コスト増加や工程遅延を引き起こす。 	
	(2) トップマネジメントと交渉する。	
設問 4	(1) <ul style="list-style-type: none"> ・問題を週次で把握でき早期に対応できる。 ・予算超過のリスクに早期に対応できる。 	
	(2) <ul style="list-style-type: none"> ・コスト、作業時間のアクティビティ単位の実績集計がない。 ・コスト、作業時間がプロジェクトコード単位の集計である。 	
	(3) 開発要員が全員 Q 社の社員である。	